

最優秀賞

「建設業界のイメージアップ」

東海工業専門学校金山校 測量設計科 1年
井本 晴 貴

「建設業はこんなに頑張っています!」「建設業はこんな仕事です!」というPRは、あまり伝わらないものだと私はそう思っています。

例えば、自分自身の趣味や好みを他人に薦めてみることを思い出してみたいと思います。その趣味について自分自身が持っている熱量だけでは、他人に伝えるのはそう簡単ではないと考えています。もし本当に相手に伝えたいのであれば、この趣味についてのポジティブな面やネガティブな面を詳しく伝えると私は考えます。この事柄を「イメージアップ」について考えてみると、多々当てはまることはある。私たちが他業種の仕事のことをさほど詳しく知ろうとしないのと全く同じで、自己主張の強いメッセージというのは受け付けられにくいものだと思います。それよりも、もっと実際の現場を魅力的にし、ありのままの現場に興味を持ってもらえるような取り組みが全体に必要なようになってくるといけないかと思っています。この課題について考えていきたいと思っています。

衣食住の「住」を担う建設業は、地域にとって無くてはならない重要な業種の一つではないでしょうか。しかし、従来の3Kイメージ(危険、キツイ、きたない)の影響もあり、若者が集まりづらい職業の一つであることも事実が変わりありません。このことを改善していくには、給与体系の整備、昇格制度や評価制度の導入、資格取得に対しての十分なサポートや新入社員研修体制構築など、従業員が仕事に対してやりがいを実感し、働きやすい環境整備を中心に様々な取り組みを行うことが必要だと私は考えています。

建設会社を志す若者を増やしていきたいと考えている企業は数多くあると思います。インターン生を募集してそこで、若者目線で広報ツールを作成・発信してみたいと思います。インターン生を中心に、高校生、専門学生、大学生に向けて心を掴むプロモーション

を考え、作成をしてもらい、その過程をYouTubeやSNSを利用して若者へ発信をしてはどうでしょうか。またこの情報を各学校団体などに見てもらえるように工夫を凝らしていくのもいい考えではないかと思っています。最終的な目標は地元テレビ局へ提案しCMや特集を組んで放送を目指していきたいと思っています。現場見学や社員のインタビューなどを通して魅力を掘り起こし、若者の心を掴み、従来の3Kイメージを刷新していきたいです。

私が思う「建設業」は、地域に貢献することだと思っています。地域に貢献することとは、どういうことか?それは「地域に何かを与える」ことだと私は考えています。道路をつくったり、防波堤をつくったりすることで地域に貢献できると考えています。この貢献ができる=地域の人たちに「幸せ」を与えているのではないのでしょうか。その幸せを1回だけではなく、2回3回と与え続けていくことが必要不可欠なことだと思っています。与え続けていくには会社を継続させていくことが必要です。会社を継続させていくには優秀な人材が必要です。しかしながら、建設業は若者に人気のない職業であると言われ、担い手不足が問題となっている現状があります。しかし、我々が地域に誇るこの仕事を、どこの職種よりも魅力的に映るように伝えることができれば、建設業が発展できます。それに加えて、地域も活気づきみんなが幸せになると考えます。このきっかけを作っていくのを私たち若い世代だと思っています。

私は幼少のときに、父に連れられ実家が施工していた工事現場を見に行くことが大好きでした。そこにある大きな重機を運転させてもらえるのも大好きでした。この最高にカッコいい職業の魅力を伝えていくのは私たち若い世代だと思っています。今後、「建設業はいいぞ!」と胸を張れる為に、建設業界が改善していけるよう、私自身も尽力していきたいと思っています。